



ブレインナビゲーター®
治療家

プロフィール

藤田治療院 院長
柔道整復師・鍼灸師・あん摩マッサージ指圧師

藤田 隆弘

「治療とは患者さんに希望を与えること」を理念とし、「脳から紐解くココロとカラダ」をコンセプトに東京と大阪で治療を行っている。数分で魔法のように体の痛みを取り除くことで知られ、100%口コミで患者さんが殺到し、予約がなかなか取れないカリスマ治療家として知られる。

なぜ？が止まらない

藤田さんは子供のころ、太陽がオレンジ色なのはなぜ？海の波はどこから来るの？といういろいろなことを常に問いかける子供だったといわれています。好奇心が優先して捕まえたトンボの足を一本もぎってしまおう子供。するとトンボはバランスを崩してうまく飛べなくなってしまう。それはなぜ？だれもが使っている電話やラジオ、テレビの中はどうなっているのか不思議だ。つまり分解して組み立ててみる。そういうことをするようになり子供はそうなんです。そして、「そのまま大人になりました」といって話す藤田さんはカリスマ治療家として知られていました。アメリカ旅行中、ラスベガスを訪れた藤田さんにお話を伺いました。

進路を変えた怪我

高校生の頃になると、将来は理数系大学に進学してコンピュータを学び、今でいうAI、人工頭脳というようなものをコンピュータで作りたいと考えていたそうです。同時に小学生のころから野球をやりたいという気持ちで陸上部で活躍するスポーツ選手でした。しかし、スポーツをしながら、繰り返し体の怪我に苦しんだと言います。

高校時代、怪我を直すために受けた鍼灸治療が、常に体の不思議を感じていた藤田さんの興味を引きました。人の仕組みに対する「なぜ？」がここで爆発したようです。自分の人生の歩むべき道はそこで直感的に感じ、高校を卒業するとその鍼灸整骨院で働きながら鍼灸を学び、柔道整復師の資格を取りました。

運命の出会い

18歳から30歳までそこで働きながら、藤田さんはいろいろな体験をします。治療のノウハウはもちろんのこと、整骨院の経営や保険システム、学生時代とは違う現実世界での様々な体験。その間、実は自身の腰痛にも悩まされてきました。自身が勤めるところの先生に鍼を打ってもらったり、同業者の友人や同僚からもアロパイスや治療を受けましたが、なかなか完治しません。ある時、友人に紹介された一人の治療家のところに行くこと。その先生は、腰には触れず、こう言いました。

「それは手首だ」

そして、手首をバキン！

最初は半信半疑でした。ところが、ひと月後、十年以上苦しんでいた腰痛は消えていました。それは衝撃的な体験でした。「え？なんで？」

The Power of Asking "Why?"

Takahiro Fujita

Brain Navigator®
Therapist

Founder, Fujita Clinic

As a child, Takahiro Fujita was fascinated by how things worked. He constantly asked "Why?" — from the color of the sunset to the mechanics of radios and the human body. That curiosity eventually led him to become a therapist.

Originally planning to study computer science, Fujita changed course after repeated sports injuries introduced him to acupuncture. A life-changing encounter with a therapist who cured his chronic back pain through an unexpected approach inspired him to dedicate his life to understanding the human body.

For more than 30 years, Fujita has continued to study with teachers from various disciplines, believing that learning is a lifelong journey. He has also participated in anatomy programs overseas, where he came to see the human body as "a work of art," with every structure serving a purpose.

Today, Fujita calls himself a Brain Navigator®, reflecting his philosophy of helping people by working with the connection between the brain and the body. His treatments are individually tailored, combining gentle techniques with movement guidance to address the root causes of physical discomfort.

For Fujita, the question that shaped his childhood — "Why?" — remains the driving force behind his work today.

藤田さんは、一般の方の健康リテラシーをあげるためにメルマガを書いています。ホームページからLINE登録やメール登録ができます。

藤田治療院ホームページ
<https://fujita-happy.com>

学ぶ旅

その技を知りたいと思った藤田さんはその先生のとこに毎日曜日に通い出しました。その先生は、誰にも技術を教えないことで知られていました。なので、藤田さんは患者として通いながら、待合室で待っている他の患者さんたちの相手をし、自ら先生のアシスタントのように動きまわりました。それを十年間続けたそうです。それだけ藤田さんはその先生に惹かれていました。

そして、それから三十年以上が経ち、藤田さんは振り返ります。その先生からどのようなことを学んだのか？ たぶん、具体的に何を教えたというのを学んだのか？ が本当のところだと思えます。自身の長年の腰の痛みを取ってくれたという体験以外、時折、質問をさせてもらったことはあったようですが、その答えは常に、「違う」でした。なので、いつも自分で考えなければならぬ。そういう学び方でした。

「技術は教えてもらうものじゃない。その人の人生を理解して初めて見えてくる。時間をかけてその人の生き方、考え方を知る必要がある」と藤田さんはいいます。

その後も、藤田さんは数々の先生から学んできました。そして、今でも学び続けているといっています。「僕は変化するのが好きなんです」と新しい発見を楽しんでいる。

しかも、最初に学んだ体験は、その後積み重ねられた学びによって少しずつ意味を変えてきたといっています。「他のものが混ざってくるから離れたかった」一番影響を受けた師の教えについて語る藤田さんの言葉は、学び続ける人ならではの哲学が感じられました。

人間の体は、常に細胞が新しく生まれ変わっています。そういう見方です。自分を作っている今日ある細胞は一年後にはまったく別のものになっています。そういう見方をすると、今の自分は一年後にはいなくなる。今の自分は毎日新しく生まれ変わっている。なので常に変化を喜ぶという藤田さんは、「過去が今を作っているといえます」といいます。「未来にこうしたいと思ったら、今日からこうしようと、その未来に向かって道を選ぶ」と前向きです。

人体はまるでアート

最初の師から、「生理学と東洋医学、解剖学を学ぶべき」といわれたのがきっかけで、藤田さんは、専門分野を超えて幅広くさまざまな勉強をしてきています。日本では法律上、解剖実習は医学生や医師などに限られているた

め、藤田さんは法規制が日本とは違う海外で何年にもわたり解剖実習に参加してきました。

藤田さんが解剖しながら感じたのは、「人体は、なんて美しい」ということ。

「細い血管は草の根が張るように一本一本が目的に向かって伸びてゆき、曲がるべきところでは精密な角度がついている。筋肉も骨もすべてに意味があり、その仕組みは驚くほど正確にできている。まるでアートです」と、創造に対する敬いの気持ちで感無量だと述べました。

解剖を通じ、藤田さんは人の体の構造を隅々まで理解します。

「体は美しいバランスが取れているもの。そのバランスが崩れると痛みになったり問題が起きる。例えば、骨盤がずれると身体がねじれて血管が引っ張られる。するとその血管は細くなって血流が悪くなる。それが痛みの原因となっているといった具合です」と

と説明してくれました。

東洋医学では医者はず患者の脈を見ます。東洋医学では、聞かずとも患者さんを見ただけでどこかの臓器が弱っているかがわかるということを探られるといえます。鍼から学び始めた藤田さんの治療には東洋医学が根幹にあり、その考え方を解剖体験が裏付けているようです。

ブレインナビゲーター®

藤田さんは、身体だけを見ているわけではありませぬ。痛みにつながる身体の歪みや動きのクセは、脳が身体を守ろうとする防衛反応から始まるクセがあります。その状態が続くと、脳はその動きを覚え、痛みや不調が慢性化することがあります。そのため、身体を通して脳の働きを整え、本来の身体の機能を引き出すという考え方が、自らを「ブレインナビゲーター®」と呼んでいます。

施術だけではなく、必要なら運動指導を、必要なら考え方のクセにも目を向ける。方法は一つではありません。その人に合った方法を選ぶことが、藤田さんの治療なのです。

何をすべきか

藤田さんは、現代人の身体の不調の理由の一つに便利な生活環境があるといっています。その対応策として、赤ちゃ

んの発達過程に注目したプログラムを手掛けているそうです。赤ちゃんが成長する時、寝返る、四つ這いになる、はいはいをする、つかまり立ちを経て歩けるようになります。身体の使い方が苦手だったり、慢性的な関節炎に悩む人の多くが、実はその赤ちゃんの発達過程で獲得する身体の基本の動きを苦手としているのに気づいたのだそうです。なので、そういう基本的な動きを学び直すことで、症状が改善するというプログラムを現在開発中だといっています。

魔法の施術

この日、インタビュアーの前に施術をしていただきました。まず最初に立ったままの身体のバランスチェック。左右のバランスの取れていない部分を指摘してくれました。さらに床に仰向けになったり、うつ伏せになったりしながら左右の動きを確認。体は水でできているからと、軽く揺さぶり、その動きを観察し、問題のありそうな部分をマッサージ。そつと触っているだけなのに、痛みを感じたり、ギュッと強く押されているように感じたり。少しマッサージをしたら、あんな不思議、痛みが消えていく。

「なぜ？」を追い続けてきた少年は、今では多くの人の体を整える治療家になっている。そして、そして今もお「なぜ？」を原動力にして学び続けています。

